

令和4年度阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会

阿寒地域部会・摩周地域部会

(合同開催)

議 事 次 第

日時：令和4年11月25日（金）14:00～16:30

場所：ニュー阿寒ホテル 会議室 花鳥風月

1. 開会

2. 議題

- (1) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2025の進捗状況について
 - ・環境省
 - ・国土交通省北海道運輸局
 - ・弟子屈町
 - ・清里町
 - ・足寄町
 - ・摩周湖観光協会
- (2) SUP2025 重点取組
「阿寒摩周国立公園トレイルネットワークの形成」について
- (3) 阿寒摩周国立公園指定90周年について
- (4) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会の令和4年度スケジュールについて
- (5) 脱炭素の取組について（カーシェアリングについて）
- (6) その他

3. 閉会

－ 配付資料一覧 －

- 資料 1－1 施設利用状況およびナイトタイムを活用した新たなイベント来場者数
(環境省)
- 資料 1－2 観光需要の地域公共交通への波及に関する調査事業、非動力アドベンチャー
トラベルモデルルートを受入環境に関する検証事業【事業概要】
(北海道運輸局)
- 資料 1－3 オンネトー野営場休憩舎 (UPI オンネトー) 施設概要 (足寄町)
- 資料 2－1 ひがし北海道 3 空港をつなぐトレイルネットワーク構想の推進 (環境省)
- 資料 2－2 3 つの国立公園とまちを繋ぐロングトレイル「想定ルート」 (環境省)
- 資料 3 阿寒摩周国立公園指定 90 周年について (環境省)
- 資料 4 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会令和 4 年度スケジュール
について (事務局)
- 資料 5 自治体様向けカーシェア提案資料 (北海道経済連合会)
- 参考資料 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム 2025 の
進捗状況

環境省直轄施設利用状況

施設名	4月から10月の利用者数				2019年と2022年の比較		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2022年	比率
阿寒湖畔エコミュージアムセンター	47,524人	16,011人	27,960人	38,413人	47,524人	38,413人	80.8%
川湯ビジターセンター	12,787人	8,797人	9,836人	11,172人	12,787人	11,172人	87.4%
和琴フィールドハウス	10,495人	7,747人	8,456人	11,021人	10,495人	11,021人	105.0%
合計	70,806人	32,555人	46,252人	60,606人	70,806人	60,606人	85.6%

リニューアルされた施設の利用状況

オンネトー野営場休憩舎（UPIオンネトー）

・4月～6月の利用者数

休憩舎利用者数 8,853人
 過去7年野営場利用者平均 1,713人
 野営場利用者数 1,993人
 過去7年平均比 **116.3%**

摩周湖カムイテラス(旧摩周第一展望台)

・4月～10月の利用者数

2019年 307,819人
 2020年 123,336人
 2021年 116,434人
 2022年 239,718人 **2019年比 77.8%**



ナイトタイムを活用した新たなイベント来場者数

●カムイルミナ 来場者数

※2020年は中止

	2019年	2021年	2022年
来場者	34,160人	17,421人	24,337人
開催日数	131日間	136日間	151日間
1日当たり 来場者数	260.8人	122.6人	156.6人

2019年と2022年の比較

	2019年	2022年	比率
1日当たり 来場者数	260.8人	156.6人	60.0%



●川湯の森ナイトミュージアム 来場者数

※2020年は未計測

	2020年	2022年
来場者	1,124人	668人
計測日数	9日間	6日間
1日当たり 来場者数	124.8人	111.3人

2020年と2022年の比較

	2020年	2022年	比率
1日当たり 来場者数	124.8人	111.3人	89.1%



北海道内7空港一括民間委託を契機とし、複数の空港を抱える道東エリアにおいて、公共交通ネットワークを一体的にWEB情報発信・手配を可能とする調査・実証を行い、コロナ後も見据え、非接触キャッシュレス決済対応を行いつつ、旅行者の空港間周遊の促進、観光需要の取り込みによる持続可能な公共交通網の構築に関するモデルとする。

【WEB予約決済プラットフォーム】

- 道東エリアにおける2次交通に関する特設サイトを開設、PC・スマートフォン上で複数バス路線等についてまとめてオンライン予約・決済が可能
- 出発地・目的地や空港等から路線の検索・予約が可能
- おすすめの周遊モデルコースを表示
- 予約制・非予約制問わずスマートフォンでチケットレス乗車が可能

【ネットワーク一覧】



阿寒バス(株)

- 釧路空港連絡バス
- 阿寒エアポートライナー
- 阿寒線
- 摩周線
- 美留和線
- 川湯線
- 鶴居線
- 釧路羅臼線
- 標津標茶線
- 4/7daysフリーパスポート
- 釧路知床号
- 知床釧路号

根室交通(株)

- 中標津空港線
- 中標津線
- 路線バスパック3コース
- 1日フリー乗車券
- 2日フリー乗車券

北海道北見バス(株)

- 女満別空港線
- 美幌津別線
- 北見バスフリーパスチケット

網走バス(株)

- 女満別空港線
- あばしりフリーパス2日券&3日券
- 施設めぐり線1dayパス

斜里バス(株)

- 知床線

北海道拓殖バス(株)

- スイーツライナー

くしろバス(株)・根室交通(株)

- 特急ねむろ号

阿寒バス(株)・北海道北見バス(株)

- 釧北号

斜里バス(株)・網走バス(株)

- 知床エアポートライナー

※JR路線も表示

【2次交通事業者と航空・空港・観光関係者によるWGの設置】

- くしろバス(株)
- 阿寒バス(株)
- 根室交通(株)
- 北海道北見バス(株)
- 網走バス(株)
- 斜里バス(株)
- 北海道拓殖バス(株)
- 北海道旅客鉄道(株)
- 全日本空輸(株)
- 日本航空(株)
- (株)AIR DO
- Peach Aviation(株)
- 北海道エアポート(株)
- 中標津空港ビル(株)
- (一社)ひがし北海道自然美への道DMO
- 北海道
- 北海道運輸局
- WILLER(株)

R3観光需要の地域公共交通への波及に関する調査事業

利用状況

- サイト訪問者の約8割が道外からのアクセスであった一方、予約者は新型コロナウイルス感染症の影響等により約5割が北海道在住者となった。
- 男女比率はほぼ同数、年代別では20代が最も多いが、10代から50代まで幅広い年代で利用があった。

【調査期間】

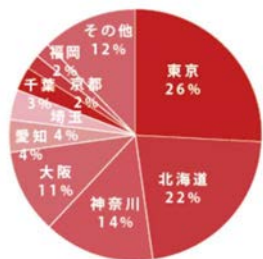
予約対象期間：令和3年12月3日～令和4年2月28日
 出発対象期間：令和4年1月1日～令和4年2月28日

【販売実績】

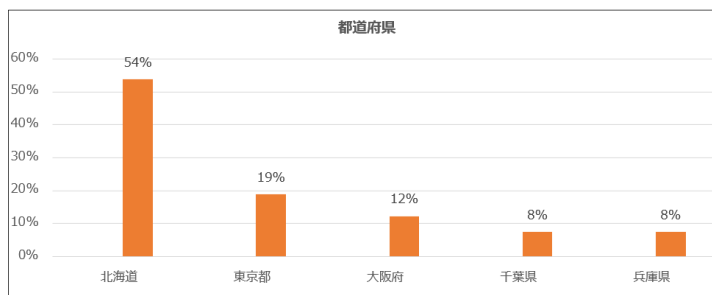
総予約者数：164名（うちキャンセル数：16名）

【地域別サイトアクセス・予約者住所】

【主な地域別サイトアクセス】



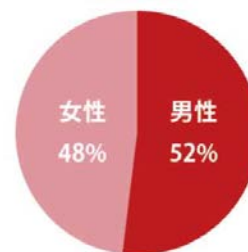
【予約者住所】



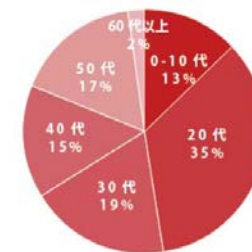
- サイト訪問者の約8割は道外からのアクセスであった。
- 予約者の住所はおおよそ5割が北海道、次いで関東2割、関西2割。

【予約者属性】

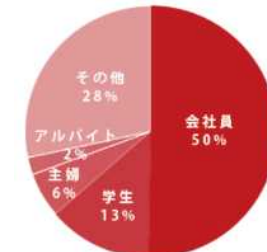
【男女比】



【年代別】

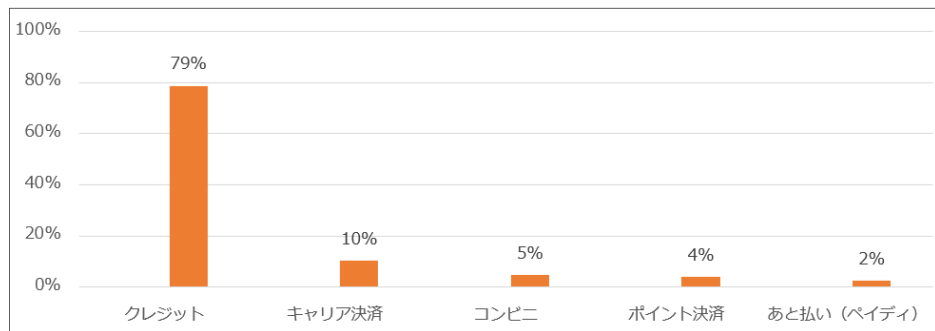


【職業別】



- 男女比率はほぼ同数、年代別では20代が一番多く、次いで30代、50代となっている。

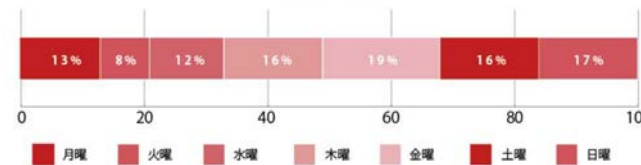
【決済種別】



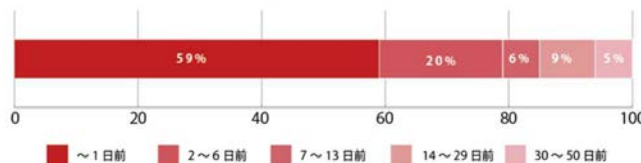
- 決済種別は約8割がクレジットカードでの決済となっている。
- 一方でキャリア決済等多様な決済手段が使われており、そのことが購入層の幅を広げている。

【出発曜日・リードタイム】

【出発曜日】



【リードタイム】



- 金土日で約5割の利用となっているが、平日の利用も少なくない。
- 直前での予約が6割と多く、その中でも当日予約が半数以上を占めている

R3観光需要の地域公共交通への波及に関する調査事業

利用状況

【周遊促進効果】

- およそ12%の利用が、単純な片道利用や往復利用ではなく、公共交通機関を乗り継いで周遊する内容も見られた。
- 単純な地点検索だけでなく、ひがし北海道の全域の交通網を販売サイト内で見える化し、モデルルートを紹介する事で周遊の予約に繋がったとも考えられる。

【周遊事例】

利用者①：大阪府・20代・男性（グループ）

- ・1日目 （【JR】？→）北見バスターミナル→【釧路号】→阿寒湖
- ・2日目 阿寒湖バスターミナル→【阿寒線】→釧路駅（→【JR】？）

利用者②：長野県・20代・女性

- ・1日目 女満別空港→【女満別空港線】→網走市街（西7丁目）
- ・2日目 網走駅→【知床エアポートライナー】→ウトロ市街
- ・3日目 ウトロ市街→【知床エアポートライナー】→女満別空港

利用者③：兵庫県・30代・男性

- ・1日目 中標津空港→【中標津空港線】→中標津ターミナル
- ・2日目 中標津ターミナル→【中標津線】→別海町市街（常盤）
別海町市街（交流館ぷらと前）→【中標津線】→厚床駅（→【JR】？）

利用者④：兵庫県・30代・男性

- ・1日目 釧路空港→【釧路空港連絡バス】→釧路駅前
釧路駅前→【釧路号】→北見バスターミナル
- ・3日目 北見バスターミナル→【女満別空港線】→女満別空港

利用者⑤：北海道・50代・女性

- ・1日目 （【JR】？→）網走駅→【知床エアポートライナー】→斜里バスターミナル
- ・7日目 斜里バスターミナル→【知床エアポートライナー】→網走駅（→【JR】？→釧路駅？）
- ・8日目 釧路駅前→【鶴居線】→鶴見台→【鶴居線】→釧路駅前
- ・9日目 釧路駅前→【鶴居線】→湿原展望台→【鶴居線】→釧路駅前（→【JR】？）

利用者⑥：奈良県・30代・男性

- ・1日目 （【JR】？→）川湯温泉駅→【川湯線】→川湯温泉（大鵬相撲記念館）
- ・2日目 川湯温泉（大鵬相撲記念館）→【美留和線】→川湯温泉駅（→【JR】？→釧路駅？）
- ・3日目 釧路フィッシャーメンズワーフ→【釧路空港連絡バス】→釧路空港

路線名	予約人数
北見⇒釧路	31
釧路⇒北見	10
女満別空港⇒ウトロ温泉バスターミナル	9
阿寒湖⇒釧路（阿寒線）	8
ウトロ温泉バスターミナル⇒女満別空港	8
北見⇒女満別空港	8
釧路⇒阿寒湖（阿寒線）	7
女満別空港⇒北見	7
釧路⇒羅臼（釧路羅臼線）	6
女満別空港⇒網走（女満別空港線）	6
根室⇒釧路	5
網走⇒女満別空港（女満別空港線）	5
釧路⇒鶴居（鶴居線）	3
斜里バスターミナル⇒知床自然センター	3
鶴居⇒釧路（鶴居線）	3
釧路⇒帯広	3
釧路空港⇒釧路（釧路空港連絡バス）	3
羅臼⇒釧路（釧路羅臼線）	3
川湯⇒摩周駅（美留和線）	3
川湯温泉駅⇒大鵬相撲記念館（川湯線）	3
中標津空港⇒根室	2
釧路⇒釧路空港（釧路空港連絡バス）	2
あばしりフリーバス	2
摩周駅前⇒摩周湖（摩周線）	1
釧路⇒知床（釧路知床号）	1
摩周湖⇒摩周駅前（摩周線）	1
津別⇒北見	1
釧路⇒根室	1
中標津バスターミナル⇒厚床駅前	1
阿寒湖温泉⇒釧路空港（阿寒エアポートライナー）	1
知床⇒釧路（知床釧路号）	1
総計	148

R3観光需要の地域公共交通への波及に関する調査事業

利用意向について

【ターゲットに関して】

- 北海道旅行未経験者は若年層（20代～30代）に多く、40代以降においては複数回の北海道旅行経験が見受けられた。
- 北海道旅行をする際に利用したい交通手段では、「鉄道」が一番多いが、北海道旅行未経験者の約4割は「観光ツアーバス」を、北海道旅行複数回経験者の約4割は「路線バス」を利用したいと回答している。

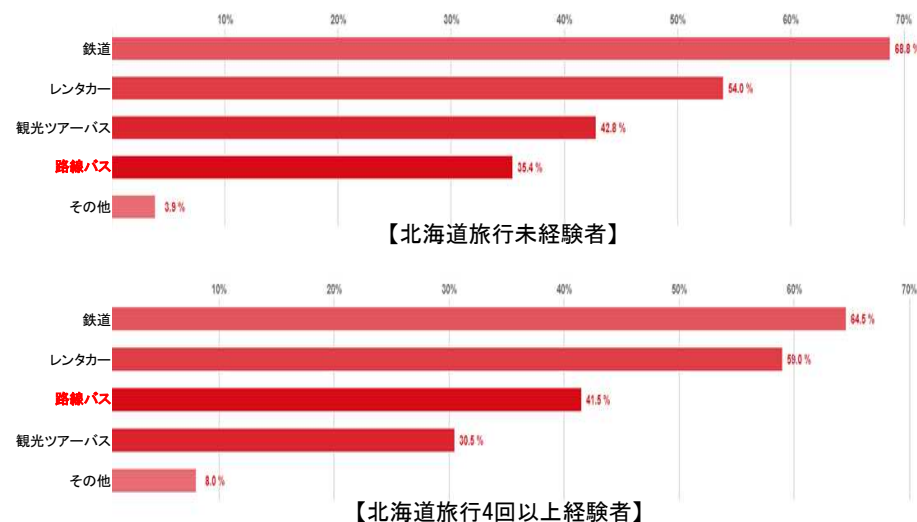
【公共交通情報のまとめサイトに関して】

- 公共交通（路線バス）の情報がまとめられていることがサイト利用意向において大きな評価ポイントとなっている。
- 「事前決済により運賃を気にせずに都度払いをしなくて済む」ことに対する評価がみられ、キャッシュレス経済の浸透への対応も重要なポイントと考えられる。

【情報とタッチポイントについて】

- 旅行計画を立てる際に「観光情報」と「公共交通情報」が同一サイトで確認できることの評価が高かった。
- 行きたいスポットとしては「流氷」が最も人気が高かったが、実際に訪問した人はその半数程度となっている。その他に人気のある「釧路湿原」「知床五湖」「阿寒湖」「摩周湖」はその差異が少ない。これら人気スポットを中心として公共交通で巡るモデルコースの周知を行うことも重要である。

【北海道旅行をする際に利用したい交通手段】



調査手法：関東・関西地区在住者から20万人を抽選したWEBアンケート調査
 実施日：令和4年3月1日（火）
 回答者数：801人（配信202,274件 回答率0,4%）

まとめ

① 公共交通（路線バス、鉄道）を利用した周遊観光の需要は高い

- ・自分で車を運転することへの忌避
- ・安い移動への要求

② 道東の観光情報と公共交通の情報がワンストップで確認できることへの評価は高い

- ・アンケート回答者の76.1%がサイトを「利用したい」と回答
- ・「利用したくない」回答者も道東に対してではなく、コロナ禍で旅行に行かないからが多かった

③ 事前決済・キャッシュレスへの需要は高くなる

- ・予約者の評価のポイントの一つである
- ・ただし、現場での対応が徹底されていないと逆評価になってしまう可能性が高い

さらに検討を要する内容として、④「道東観光」のニーズの掘り起こし ⑤ターゲットとの接点創造 を合わせて考える必要がある。

- ・人気の観光スポットを中心としたモデルコースの周知
- ・「これまで来ていない若年層」と「リピーターとなる中高年層」というターゲットを意識した効果的な情報提供 など

令和4年7月20日

阿寒バス株式会社 斜里バス株式会社 ふらのバス株式会社
旭川電気軌道株式会社 道北バス株式会社 北紋バス株式会社
網走バス株式会社 十勝バス株式会社 北海道北見バス株式会社
くしろバス株式会社 根室交通株式会社 北海道拓殖バス株式会社
国土交通省北海道運輸局

「バスや鉄道で旅するひがし北海道交通ネットワーク」の 購入可能エリアが拡大

～帯広・旭川・紋別空港エリアのバス路線を拡充し利便性が向上します～

昨年度、北海道運輸局と道東バス事業者7社が開設したWEBサイト「バスや鉄道で旅するひがし北海道交通ネットワーク」に新たなエリアのバス事業者5社が加わり、本日から購入可能路線が拡大します。

このサイトにより、釧路・女満別・中標津・帯広・旭川・紋別空港エリアの空港連絡バス、都市間バス、観光利用の多い路線バスのチケットの予約・決済、チケットレス乗車が可能となり利便性が向上します。

- 昨年度、北海道運輸局では道東エリアにおける二次交通に関する特設サイト「バスや鉄道で旅するひがし北海道交通ネットワーク」を開設し、サイト内でバスの路線案内、バスや鉄道で巡るモデルコースの確認、路線バス等のオンライン予約・決済、スマートフォンでのチケットレス乗車を可能とすることで公共交通の利用促進効果、周遊促進効果を検証しました。
- この調査により、路線バス等を利用した周遊観光や公共交通での事前決済・キャッシュレスへの需要が高いこと、また観光情報と公共交通の情報がワンストップで確認できることへの評価が高いことがわかりましたが、さらなる周遊促進のためには道東エリアにとどまらず他地域への拡大を推進していくことが必要と考えています。
- そこで今年度、「バスや鉄道で旅するひがし北海道交通ネットワーク」に帯広・旭川・紋別空港周辺エリアの事業者5社を加え、サイトをリニューアル、釧路・女満別・中標津・帯広・旭川・紋別空港エリアの空港連絡バス、都市間バス、観光利用の多い路線バスのチケットの予約・決済、チケットレス乗車が可能となり利便性が向上、更なる空港からの二次交通利用促進、周遊観光需要の創出を図ります。

- WEBサイト「バスや鉄道で旅するひがし北海道交通ネットワーク」

サイトURL <https://travel.willer.co.jp/campaign/hokkaido/>

- 対象路線

別紙「二次交通ネットワーク」を参照願います。

- 実証期間

7月20日から

※バス路線によって販売開始日が異なります。

詳しくは別紙を参照願います。



【問い合わせ先】

北海道運輸局交通政策部

計画調整官 久原・交通企画課 平田

TEL：011-290-2721（直通）

FAX：011-290-2716



【サイトイメージ】

非動力アドベンチャートラベルモデルルートを受入環境に関する検証事業【事業概要】

事業の背景

- 昨年度、北海道運輸局では「阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク」の一部ルートを活用し、全ての移動をトレッキング・サイクリング・カヌーなど、人力や電動によるアクティビティのみで繋いだ、**総延長206kmのアドベンチャートラベルモデルルート**を設定した。
- 広域でロングトレイルやATを地域で持続的に運営・管理していくためには地元ガイドだけではなく、宿泊事業者等の観光関係者、自治体、地域住民など**地域全体の関係者のATやロングトレイルへの理解の促進や、各関係者によるネットワーク構築が重要**となる。
- そこで、ロングトレイルに関わる地元ガイド等の関係者が、ATツアーを提供に際して遵守することが望ましい事項（**サステナブルな取り組みや安全性**）を地域に示し、ATやロングトレイルへの理解促進及び、ロングトレイルを通じた関係者間のネットワーク強化を図る。

事業内容

1. 道東地域におけるロングトレイルを活用したATツアーに対応するためのガイドラインの作成

- ・道東地域のATの幅広い関係者間における事前の情報共有の仕組みや、安全管理対策の体制づくり、サステナビリティへの配慮などの方針（ガイドライン）を作成し、それを地域に示す。

2. ロングトレイルの有識者を講師としたセミナーの開催

- ・道東地域の観光関係者、自治体、地域住民を対象とした、AT及びロングトレイルが地域にもたらす恩恵、地域連携型の観光振興の効果伝えるセミナーを開催する。
- ・基調講演には、世界の成功事例として知られるロングトレイルの有識者を招請予定。

開催時期（予定）令和5年2月頃

上記の取組により、各関係者同士の調整の一助となり、地域関係者のATやロングトレイルへの理解促進につながるかどうか検証を行う。



意見交換会

- ガイドライン作成にあたり地域ガイド等の関係者と協議する場として、意見交換会を実施。（令和4年9月30日開催）
- 弟子屈公民館にて開催（現地、WEB併用での開催）。計21名が参加。
- 参加者構成：地域ガイド、環境省、林野庁、開発局、地方自治体、観光協会、消防署、宿泊施設、飲食店、運輸局
- 意見交換会にて収集できなかった事項や、後追いで確認が必要な事項などがあり現在個別で追加ヒアリングを実施中。



意見交換会の様子

検証ツアー

- 本事業にて作成するガイドラインの実効性確認及び、ガイドラインの課題洗い出しを、ATの模擬ツアーにより検証。（令和4年10月27日～29日実施）
- 屈斜路湖周辺にて、ハイキング、サイクリング、カヌーといったアクティビティを実施し、催行判断基準やアクティビティ前のセーフティトーク、スルーガイドとの連携、ツアーストーリーの共有など多岐にわたる項目を検証した。
- 有識者からは、地域としての意見がぶれないための一本筋を通すこと、とにかくあらゆる地域関係者の意見を収集することが重要との話があった。



サイクリング前のセーフティトークを確認

オンネトー野営場休憩舎 (UPIオンネトー) 施設概要

資料 1-3

- 施設完成 令和3年12月
- 施設使用準備 令和4年4月～5月（ほぼGW後）
- 施設使用開始 令和4年6月1日
- 施設使用終了 令和4年10月31日予定

※毎年6月1日～10月31日までの営業期間
(オンネトー国設野営場と同じ営業期間)

現地は標高が高いこともあり11月に水道凍結する。
毎年12月10日頃から翌年4月10日頃まで道道オンネ
トー線が冬期通行止めとなるため、通年利用は困難。

施設機能

- 休憩、観光案内（カウンター6席、ソファ3席、テーブル8席、デッキ2席）
- 飲食（コーヒー、お茶、サイダー、水、ソフトクリーム、パン、チーズなど）
- シャワー（5分300円、タオル、石鹸等販売有）
- アウトドア用品販売、レンタル
（焚火台、バッグ、ウェア、アウトドアチェア、ハンモック、ナイフなど）
- フリーWifi
（現在携帯電話の電波なし、固定電話有（野営場管理棟も有））
※携帯電話の電波については3社共架電波塔について協議中。
- ワークショップ
（概ね月1回、グリーンウッドワーク、テントサウナ、焚火など）
- 防災拠点
（防災ヘルメット、圧縮毛布、担架、エアマット、簡易ベッド、発電機など）
※今年の雌阿寒岳遭難者捜索時に捜索拠点として活用。

2022.6.1 OPEN UPI オンネトー



アウトドアグッズ
販売・レンタル



FREE Wi-Fi

オンネトー

UPI オンネトー



野営場利用受付



ワークショップ



軽食提供
※7月以降



観光案内・休憩所
コインシャワー

場所：足寄町茂足寄オンネトー園設野営場内

電話：0156-28-0115

 @upi_onneto
Instagram

令和4年6月～10月までの

休憩舎利用者数 8,853人 ※手動カウンターで計測

野営場利用者数 1,993人 ※過去7年平均1,713人

R4野営場利用者 道内57% 道外43%

(コロナ前 道内53% 道外40% 国外7% (平成30年))

道外はコロナ前も現在も関東甲信越の利用者が最多(全体の約30%)

過去のオンネトー交通量調査でもレンタカー約30%、道外ナンバー10%のため、オンネトー入込の40%程度は道外からの観光客と思われる。

【これまでの取り組み】

・阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト「ステップアッププログラム2025」の重点施策にトレイルネットワーク構想を位置づけ、摩周屈斜路トレイル、屈斜路外輪山トレイル、裏摩周神の子池トレイル等をネットワークで繋ぎ、**3空港（釧路空港、女満別空港、中標津空港）を結ぶトレイルネットワーク構想**として推進。

【2019（令和元）年度～】

- ◆2019年7月～2020年2月
トレイルネットワーク構想（案）及びトレイル標識整備及び維持管理に関するガイドライン（案）策定。
- ◆2020年7月～2020年12月
トレイル標識に関する統一デザイン（案）検討。
- ◆2021年2月
阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会にて、「阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク構想」を推進することを決定。

(同年同月)
阿寒摩周国立公園トレイル標識整備及び維持管理に関するガイドライン策定。



- ◆2021年11月～2022年3月
トレイルネットワーク推進のための課題整理及び、管理運営体制構築に向けた方向性を検討。

- 【当面の課題】
1. 地域の理解促進。（気運醸成）
 2. トレイルルート全体の情報発信拠点及び管理運営体制構築。
 3. 長く歩く旅として楽しめる**1本に繋がったロングトレイル（300km超）**づくりの推進。
 4. ロングトレイルとしてブランディングの推進。
 5. **歩くことを目的とする人々の誘客推進。**

2022（令和4）年度「3つの国立公園とまちを繋ぐロングトレイル」の検討開始

【3つの国立公園とまちを繋ぐロングトレイルの実現に向けて】
370Kmロングトレイルへの挑戦！（13市町村連携）～長距離自然歩道（計画）の活用

- ①満喫プロジェクトによる3空港を結ぶのトレイルネットワークの取り組みを、釧路湿原国立公園、阿寒摩周国立公園、知床国立公園を繋ぐロングトレイルに！（長く1本に繋げることで誘客／ツアー化の推進）
- ②3国立公園とまちを結び、300Kmを超える長く1本に繋げたロングルートを検討。（広域ブランディング）
- ③北海道自然歩道（長距離自然歩道）整備を含めた取り組みに拡大。（地域の取り組みをサポート）
- ④北海道らしい5つの特色あるエリア（日本一の釧路湿原エリア、酪農エリア、日本一のカルデラエリア、畑作エリア、知床世界遺産エリア）を歩きながら、自然環境の厳しい北海道に移り住み、開拓してきた人々の暮らしと風土を感じ、今なお残る大自然の神秘にロマンを感じながら歩くロングトレイルとして推進。



世界水準のロングトレイル形成を目指す



【主な取り組み】

- ・8～9月**ロングトレイル想定ルート**の全線調査（徒歩、車）
- ・関係自治体等（13市町村他）への個別ヒアリング実施・・・11/1～11/10、12/9
- ・トレイル関係者等との交流会開催・・・第1回 11/2、第2回 1/17
- ・トレイル勉強会（説明会＆ワークショップ）開催～3公園毎に実施・・・12/8、12/12、1/18
- ・シンポジウム開催（釧路）・・・2/4（土）
- ・トレイル憲章（案）、トレイル名称（案）、ロゴマーク（案）、運営体制（案）検討
- ・トレイルルート上の基礎情報調査～トレイル「DATA BOOK」データベース作成
- ・プロモーション素材撮りだめ（写真・動画）



【2023（令和5）年度】（計画）

- ・トレイル全線の運営体制整備・・・トレイルセンター開設に向けた準備（管理運営組織立ち上げ）
- ・関係自治体等を含めた推進会議立ち上げ・ロングトレイル先進地視察（信越トレイル/みちのく潮風トレイル等）
- ・トレイル憲章、トレイル名称、ロゴマーク、トレイルルートの確定
- ・ルート情報整理・道標整備・トレイルMAP他広告媒体作成・トレイルルート整備に関するガイドライン策定
- ・管理運営体制、運営計画策定・地域住民への理解促進（住民説明）・ATWS/旅行会社等への情報発信（プロモーション）

【2024（令和6）年度】（目標）

目標：2024年【夏】「(仮称) Japan Frontier Trail」全線開通！